

※下記の下線字ページを記入し、下線なしのフォントに変換後出力してください。
この行は最終的に削除してください。

耐震診断報告書目次

§ 1 建築物及び耐震診断結果概要

1-1 建築物概要及び構造概要	<u>P1</u>
1-2 耐震診断概要	<u>P1</u>
1-3 耐震診断結果	<u>P1</u>
1-4 配置図	<u>P1</u>
1-5 平面図・立面図・構造図	<u>P1</u>
1-6 外観写真	<u>P1</u>

§ 2 現地調査

2-1 調査概要	<u>P1</u>
2-2 調査結果	<u>P1</u>
2-2-1 図面との照合	<u>P1</u>
2-2-2 建物被災履歴	<u>P1</u>
2-2-3 コンクリートのひび割れ	<u>P1</u>
2-2-4 コンクリートの強度	<u>P1</u>
2-2-5 コンクリートの中性化	<u>P1</u>
2-2-6 経年指標	<u>P1</u>
2-2-7 付表等(調査結果一覧表	<u>P1</u>

§ 3 耐震診断方針

3-1 耐震診断内容	<u>P1</u>
3-2 耐震診断基準等	<u>P1</u>
3-3 使用電算プログラム	<u>P1</u>
3-4 使用材料及び強度	<u>P1</u>

§ 4 耐震診断計算

4-1 形状指標(SD)	<u>P1</u>
4-2 C_T -F図	<u>P1</u>
4-3 第二種構造要素の検討	<u>P1</u>
4-4 破壊形式図	<u>P1</u>

§ 5 添付資料

5-1 詳細検討資料	<u>P1</u>
------------------	-----------

§ 1 建築物及び耐震診断結果概要

1-1 建築物概要及び構造概要

(診断)

発注者		<u>〇〇〇</u>		
耐震診断	診断者	<u>〇〇〇</u>		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。
	診断者住所	<u>〇〇〇</u>		
	診断年	<u>平成00年00月</u>		
	診断評価番号	<u>HA0 34-00-0000</u>		
診断建物名称		<u>〇〇〇</u>		
診断建物所在地		<u>〇〇〇</u>		
診断建物設計者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物施工者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物規模		地上 <u>0</u> 階 地下 <u>0</u> 階 塔屋 <u>0</u> 階	建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・建築物の軸線	
診断建物竣工年		昭和 <u>00</u> 年 (経過年数 <u>00</u> 年)	・増築の有無	
主要用途		<u>〇〇〇</u>	・増築・改修の時期	
主要仕上		外壁 <u>〇〇〇</u> 屋根 <u>〇〇〇</u>	・外壁、屋根の仕上げ	
建物形状	平面形	<u>〇〇〇</u>		・建物形状の特徴
	立面形	<u>〇〇〇</u>		
建物面積	建築面積	<u>0</u> m ²	・床面積の内訳	
	延べ面積	<u>0</u> m ²		
	<u>0</u> 階	<u>0</u> m ²		
建物高さ	軒高さ	<u>0</u> m		
	<u>0</u> 階	<u>0</u> m		
建物長さ	X方向	<u>0</u> m		
	Y方向	<u>0</u> m		
隣接建物 避難階段等		<u>〇〇〇</u>	・隣接建物 ・EXP. Jの間隔、高さ比 ・避難階段・滑り台の有無、接合方法 ・その他重要事項	

建築物概要
*耐震診断

構造概要*耐震診断	構造種別	<u>〇〇〇</u>		構造の特徴	
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※下記の項目などを記述する。 ・架構形式
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	・極脆性柱の位置 ・下階壁抜け柱の位置 ・大スパン梁の位置 ・持出し部材の位置
		Y方向	<u>0</u>	スパン	
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
	極脆性柱	X方向	<u>極脆性柱の有無</u>		
		Y方向	<u>極脆性柱の有無</u>		
	下階壁抜け柱	X方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		
		Y方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		
	大スパン梁	X方向	<u>大スパン梁の有無</u>		
		Y方向	<u>大スパン梁の有無</u>		
	持出し部材	X方向	<u>持出し部材の有無</u>		
		Y方向	<u>持出し部材の有無</u>		
	層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
	単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m ²	
柱壁量	<u>0</u> 階	X方向	Y方向		
		<u>0</u>	<u>0</u>		
基礎地盤	基礎形式	<u>〇〇〇</u>		・地盤	
	長期支持力	<u>〇〇〇</u>			
	支持層	<u>〇〇〇</u>			
	支持深さ	<u>〇〇〇</u>			
	地盤種別	<u>〇〇〇</u>			
	敷地状況	<u>〇〇〇</u>		・敷地	
その他	<u>〇〇〇</u>		・その他重要事項		

(診断)

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²	材料の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・コンクリート強度、中性化の内訳
		<u>0</u> 階	推定強度	<u>0</u> N/mm ²	
	中性化	基準値	<u>0</u> mm	各階の中性化深さ	<u>0</u> mm
		測定値の最大	<u>0</u> mm		
	既存鉄筋	主筋 帯筋 あばら筋 壁筋 スラブ筋	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)
<u>000</u>			<u>0</u> N/mm ²		
<u>000</u>			<u>0</u> N/mm ²		
<u>000</u>			<u>0</u> N/mm ²		
<u>000</u>			<u>0</u> N/mm ²		
既存鉄骨	柱 梁	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²			
その他	ボルト	材質	引張強度	・鋼材の引張強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
		<u>000</u>	・その他重要事項		

1-2 耐震診断概要

(診断)

現 地 調 査 ＊ 耐 震 診 断	設計図書の有無	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	被災履歴	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
	図書の照合	<u>〇〇〇</u>	・調査方法、箇所について発注者と協議
	ひび割れ劣化	<u>〇〇〇</u>	・左記項目の内、重要な項目
	不同沈下	<u>〇〇〇</u>	・CAD化した図面の発注者の承認
	部材寸法	<u>〇〇〇</u>	
	基礎状況	<u>〇〇〇</u>	
	コンクリートブロック	<u>〇〇〇</u>	・コンクリートブロック
	非構造部材	<u>〇〇〇</u>	・非構造部材
	その他	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項 ・鉄骨がある場合はその他に記載する。

モデル化および計算手法*耐震診断	節点振り分け	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	仮想仕事法	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
	荷重増分法	<u>〇〇〇</u>	・回転壁
	解析用外力分布	<u>〇〇〇</u>	・外力分布
	剛床・ゾーニング	<u>〇〇〇</u>	・使用プログラム、バージョン
	部材内法寸法位置	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項
	壁	<u>〇〇〇</u>	
	下階壁抜け柱	<u>〇〇〇</u>	
	軸力変動	<u>〇〇〇</u>	
	柱耐力	<u>〇〇〇</u>	
	梁耐力	<u>〇〇〇</u>	
	第2種構造要素	<u>〇〇〇</u>	
	偏心率の算出方法	<u>建防協のB法による。</u>	
使用プログラム	<u>〇〇〇</u>		

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	〇〇〇			※発注者と協議を記述する。
耐震診断諸数値	地域係数： $Z = 0.00$ 用途係数： $U = 0.00$ 地盤指標： $G = 0.00$ 振動特性係数： $R_t = 0.00$ 経年指標： $T = 0.00$ RC造： $S_T = 0.30$ 形状係数 S_D は建防協のB法とする 外力分布補正係数は Δ_i 分布とする。			
	RC造： $I_s = E_o \cdot T \cdot S_D / (Z \cdot R_t \cdot G)$ RC造： $q = C_{TU} \cdot S_D / (S_T \cdot Z \cdot G)$			
耐震診断判定指標	$I_{so} = 0.00$ $q \geq 0.00$			※発注者と協議を記述する。
耐震診断結果	X方向			考察
	階	I_s 値	q値	判定
	1階	0.00	0.00	〇〇〇
	Y方向			・第二種構造要素
	階	I_s 値	q値	判定
	1階	0.00	0.00	〇〇〇
	特記事項			
	※下記の項目などを記述する。			
	・コンクリート強度			
	・地盤			
・コンクリートブロック				
・非構造部材				
・隣接建物				
・大スパン				
・持出し梁				
・鉄骨				
・詳細な調査の必要性				
・改修の必要性				
・補修の必要性				
・その他重要事項				

X方向												
	階	ΣW (kN)	E_o	S_D	T	$C_{TU} \cdot S_D$	I s	q	F1	F2	F3	破壊形式
→	正加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
←	負加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
Y方向												
	階	ΣW (kN)	E_o	S_D	T	$C_{TU} \cdot S_D$	I s	q	F1	F2	F3	破壊形式
→	正加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
←	負加力											
	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
凡例												
※下記の記述は参考例である。												
CB 曲げ柱 : CS せん断柱 : CSS 極脆性柱												
CWB 壁付曲げ柱 : CWS 壁付せん断柱 : CWSS 壁付極脆性柱												
WB 曲げ壁 : WS せん断壁 : WR 回転壁												
WWB 曲げそで壁 : WWS せん断そで壁												
特記事項												
※決定した方向などを記述する。												
※その他重要事項												
判定基準は以下とする												
(1) Isが0.3未満またはqが1.0未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。												
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。												
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。												